

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームふなき		
所在地	宇部市大字船木 833番地		
電話番号	0836-69-0975	事業所番号	3577700168
法人名	医療法人 扶老会		

訪問調査日	平成 21 年 1 月 21 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 13 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	13 人	常勤 10 人 非常勤 3 人 (常勤換算 12 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	340 円	昼食	520 円
	夕食	520 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	13,500 円		
	内訳	光熱水費 13,500 円		

(4) 利用者の概要 (12月10日現在)

利用者数	18 名	男性 3 名	女性 15 名	
	要介護 1	8	要介護 4	1
	要介護 2	4	要介護 5	1
	要介護 3	4	要支援 2	
年齢	平均 83 歳	最低 64 歳	最高 94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 山陽小野田市市民病院 歯科 コスモ歯科クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

勤務の一環として外部研修を受け、復命、共有する仕組みや、資格取得に対しての勤務体制の支援、ホーム独自の研修、法人の内部研修、病院関係の研修と参加する機会が多く、職員も積極的です。また、同業者との交流も多く、山口県宅老所・グループホーム連絡会やブロックの研修に参加すると共に、介護支援専門員の勉強会や他のグループホーム(7ヶ所)と勉強会、訪問、情報交換して、サービスの質の向上に取り組まれています。

(特徴的な取組等)

隣接の老人保健施設から医師、看護師長が毎日1~2回巡回して利用者の健康管理に努められ、家族の安心、職員の支援の助けとなっています。その他に、夜間救急時の応援、職員の勤務体制の応援、避難訓練、感染症の対応など、連携が充実しています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

運営推進会議で評価結果を報告すると共に、全職員で課題について話し合い、改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

2ヶ月前から、2グループに分かれ項目毎にミーティングをし、検討後、まとめは各ユニットの副管理者が記載しました。自己評価を全職員で取り組むことでケアの振り返りの機会となっています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回、市介護保険課職員、元民生委員、地域住民(2人)、家族、利用者、職員のメンバーで外部評価の報告、近況報告、防犯、避難訓練等について意見交換して、サービスの質の向上に努めています。

(家族との連携状況)

ホームだより、暮らしぶりや行事報告、金銭出納の写しを毎月送付されています。また、訪問時や電話で意見、希望を聞いています。家族会(年3~4回)も開催されています。行事案内や利用者自身が書いた暑中見舞いや年賀状を出す支援もしておられます。

(地域との連携状況)

法人のまつり(フリーマーケット等)に地域の人々が訪れたり、地域の芸文フェスタに参加すると共に、小学校の運動会の見学等で児童と交流、ボランティア(おしゃべり、折り紙等)の方々の訪問、民生委員、PTA、婦人会の方々の見学、看護学生の実習受け入れ、警察、消防とも連携しています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の中でその人らしく暮らすということについて、全職員で検討し「私たちは、地域と支え、支えられる関係を構築することを目指します」という理念を作りあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送り、朝礼の際に唱和し、共有に努めている。また、日々の支援において、理念の実践の取り組みについて工夫している。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	法人のまつりに地域の人の参加があり、地域の芸文フェスタに利用者が参加している。小学校の運動会の見学等での交流、民生委員、PTA、婦人会の見学、看護学生の実習の受け入れ、警察、消防との連携、ボランティアとの交流に努めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回、元民生委員、市職員、地域住民(2人)、利用者、家族、職員のメンバーで、外部評価の報告、近況報告、防犯、避難訓練等について意見交換している。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターと相談や情報交換をしている。また、介護相談員が月に1回来訪し、介護相談などサービスの質の向上について話している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホームだよりと金銭出納などの写しを毎月送付している。近況報告の手紙も出している。また、来所時に状況の報告をすると共に、電話での報告もしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情を受け付ける窓口及び担当職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。また、来所時や電話等でも意見要望が言えるように努めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤10名、非常勤3名を確保し、勤務体制を5区分して利用者の希望に柔軟に対応が出来るよう、無理のない勤務シフトにしている。行事や急な変更時には老人保健施設よりの応援もあり、産休、育休等の制度もある。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	老人保険施設との異動もあるが、異動はなるべくしない方針となっている。離職の場合は、10日間程度の重複期間(夜勤は2~3回)を取り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として外部研修を受け、復命、共有する仕組みで、資格取得に対しての勤務体制の支援もある。ホーム独自の研修、老人保健施設、病院関係者への研修にも参加し、新人職員はユニットリーダーについて学ぶ機会を作り、育成している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、宇部・山陽小野田地区の研修への参加や情報交換、介護支援専門員の勉強会への参加や交流、他のグループホーム(7ヶ所)と勉強会、情報交換、交流するなどして、サービスの質の向上の取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	見学や茶話会に来所してもらったり、入居前に面接に行き、馴染みの関係作りをしている。馴染むことなく利用になる場合は、家族の面会を頻繁にして貰うなどの配慮をしている。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	畑づくり、寿司やおはぎの作り方、生活の知恵を教えてもらうなど、一方的な関係にならないように、場面を作る工夫やお互いに感謝のことは等々を掛けあうなど、和やかな雰囲気の中で生活をしている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	センター方式を活用して家族からも情報を得ると共に、日常生活日誌に思いや希望を記載をして把握に努めている。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	センター方式を活用し、家族、利用者の希望を聞き、月1回のカンファレンスを開催している。介護支援専門員と職員で話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	3ヶ月毎の見直しとなっているが、日々の生活記録等によって変化が生じた時には、本人、家族、関係者と話し合い、新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	受診、投票、墓参り、ふるさと訪問、見舞い、宿泊など、事業所の多機能性を活かして柔軟な支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、遠方の方や事情によっては代行するなど、適切な医療を受けられるように支援すると共に、情報の伝達をしている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状態の変化がある時の対応について、家族、医師、職員と話し合っているが、明確な方針の共有にはいたっていない。指針を検討中である。	・関係者全員での方針の共有
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人の内部研修で接遇の研修を受けると共に、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に気をつけるよう副管理者が指導している。記録類は鍵のかかる事務室に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々、一人ひとりの希望や状態によって、その人らしい暮らしが出来るよう柔軟な支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝、昼のメニューは利用者と相談しながら決めている。一緒に食材の購入から調理、盛り付け、片付けをしている。職員も同じ食卓で食事を一緒に食べながら、会話を楽しんでいる風景が見られた。また、一緒に作った野菜を食材として使っている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回、15時～18時となっているが、希望があれば毎日入浴できる。体調に合わせて清拭、シャワー浴、足浴などもある。また、2人で入浴するなど、楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑作り、絵画、パズル、漢字並べ、折り紙、茶碗洗い、おやつ(ケーキ等)作り、料理、後片付け等、活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	法人の敷地は広いので、希望により毎日散歩に出かけたり、買い物、季節ごとの花見、初詣、ドライブ等に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会に参加するなど、全職員が正しく理解している。言葉や薬による拘束に関しては、日々の指導等で拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の見守りの方法を徹底し、外出傾向を察知すれば、一緒にでかけるなどの工夫をすると共に、法人との連携で声かけや見守りがあり、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリはつとに記録し、検討をすることで、一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。医師、看護師が毎日ホームを訪れ、健康状態を確認する時に指導を受けたり相談したりしている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し、全職員が救急救命法やAEDの使用方法を受講して、看護師による応急手当の指導、老人保健施設との連携など急変時の対応に備えている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施し、消火器の使用訓練をすると共に、連絡網を作成している。地域の協力体制について、運営推進会議等での協力依頼の働きかけはされていない。	・地域との協力体制の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬剤情報提供書を確認し、理解、共用すると共に、名前を確認して、手渡しし、服薬を見届けている。症状の変化を個人記録に記入し、必要な情報は医師、薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、歯磨き、声かけ、見守りを行い、義歯、歯ブラシの清掃や保管の支援をしている。月1回歯科医、歯科衛生士の訪問診療があり、噛み合わせやブラッシングの指導を受けている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	併設施設の管理栄養士は献立会議にも参加し、カロリー、バランス、塩分量のチェックの指導を受けている。食事量、水分量の記録、きざみ、とろみの対応、嫌いな食材の変更などの支援もしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、手洗い、うがいの励行、手すり等の毎日の消毒など予防対応を看護師を中心に取り組み、流行の情報があれば法人よりの指導がある。インフルエンザの予防接種は利用者、職員も全員接種している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	料理の音や匂いに安らぎ、隣のユニットの利用者の姿や花木も見える大きな窓で共用空間は明るく、畳の間やソファ、食卓等は利用者の居場所となり、ゆったりと座り、会話を楽しんでいる。浴室、トイレも利用者の使いやすいように工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンは自分の好みの物で、テレビ、タンス、冷蔵庫、鏡、椅子、写真等、家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を活かして、居心地良く過ごせる工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームふなき
所在地	宇部市大字船木833番地
電話番号	0836-69-0975
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (12月10日現在)

ユニットの名称	A棟			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 3 名	女性 15 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	3	要介護 5	0
	要介護 3	3	要支援 2	0
年齢構成	平均 86.3 歳	最低 72 歳	最高 94 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	全員で一通り読んで意見を出し合い、松本がPCでまとめた。
評価確定日	平成 20 年 12 月 20 日

【サービスの特徴】

平成13年の開設以来、はじめは試行錯誤で悪戦苦闘でしたがようやく落ち着いてきたような気がします。7月～12月までGH全体で入退去がなく、A棟にいたっては1年入退去がなく、同じ顔ぶれという安心感もあり落ち着いたケアができています。ケアをする上で安心の要因は医療面が充実しているということがあると思います。Drはもちろん、隣接する老健ふなき看護師がよくGHに来ていただき、入居者の健康面の相談にのってくれています。

職員は勤務体制が多様で柔軟に対応し、有給なども取りやすい勤務体制となっております。職員も介護福祉士、社会福祉士、ケアマネ、栄養士、いろいろでバランス取れています。キャラもいろいろ、性格もいろいろ。大きい施設の職員と違って一人ひとりオールマイティな能力を兼ね備えています。A棟の入居者の方はマイペースの方が多く、なかなか一丸にならない時もあります。しかし、のびのびと一緒にカルタをしたり脳トレをしたり、絵を描いたりプラプラ歩き回ったりフリーに生活しています。

ケアプランにはセンター方式を利用。一人ひとりにあったケアを提供しています。行事やボランティアも色々取り組んで地域にも積極的に出ています。お食事は朝昼とホーム内で調理。夕は給食。献立は管理栄養士も同席し週に一度、献立を決めて入居者の健康面を配慮しつつ嗜好を取り込みながらわかりかたおいしい料理を提供できています。GH理念のもと基本に忠実にかつ型にはまらない楽しいケアを目指しています。職員が楽しくなければ入居者も楽しくないので肩肘はらずのんびり、バカ言って、たまには落ち込み入居者9名+職員6名、ひとつ屋根の下で共同生活をしています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		4つのGHふなき理念の中に地域の中で支え、支えられる関係を築くという内容をもりこんでいる。
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		管理者、職員は理念を共有し日々話し合いの機会を持ち取り組んでいる。
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		管理者は職員に運営理念を明確に示している。兼務だがホームにもたびたび来られ気づき・指示があります。
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		運営者管理者は大変真面目で熱意があります。日本を支えた世代で大変熱心に取り組んでいます。
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		新聞や行事・買い物などで理念の理解をしてもらうよう努力している。
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		市の民生委員やボランティアさんとの交流を日々持ちいつも日常的な交流が出来るよう努めている。
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		地域の行事、小学校の運動会など毎年参加し交流に努めている。また、ホーム内での催し等地域の方に呼びかけている。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		隣の住民にはいろんな行事を案内しています。花火も一緒にしました。すいかもごちそうしました。
			A棟の方は平均年齢86歳とやや高齢。出向くのも良いが来てもらうも増やしたい。
			交流は立地条件的に良くないが開設時と比較すればだんだんと良くなってきており、さらに担当者など決めて取り組んでいきたい。
			地域への介護教室してみたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価は一年に1回あり、刺激にもなります。常に何か改善点があります。常に取り組んでいます。	改善点が常にある。改善後、継続が難しい継続したい。
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	二カ月に1回民生委員、市職員、家族、利用者、スタッフが集まりテーマを決め話し合いを行っている。その時の意見や提言を参考に出来るところから取り組んでいる。	2か月1度というのは少しきついといつも感じる。GH連絡会でも話題に出ました。2か月に1度はやっています。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	提出物がある時は足を運んだりして機会を作っています。市の職員さんにボランティア演奏もしていただきました。	全員の職員が接する機会をもってきたい。
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修などで学んでいます。また、利用者ご家族に成年後見人制度を利用している方がいます。	もっとホーム内研修で取り上げた方がよい。
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について研修などで学ぶようにしている。また、ストレスが溜まり過ぎないように気を付けている。	職員だけのお食事会を実施
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は十分に説明し納得してもらっている。	料金滞納者(第一号)最初にきちんと説明するべきだった。
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃より利用者と職員のコミュニケーションをとり不満、要望など気軽に言える関係を保ち、ホームでの生活を楽しめる様努力している。	運営推進会議に入居者が出席しているが形だけ認知症の軽い人に偏る。日頃から意見を吸収したい。
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月一回家族へ利用者さんの近況報告、金銭出納帳の写しなどホーム便りを送っている。また、面会の際にも健康状態精神状態など報告している。	デジタルビデオカメラがあれば映像を編集してプレゼントすれば良く分かるかなと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		<p>基本的に情報開示の要求に原則拒否はしていません。</p> <p>インターネットの情報活用をご家族にもっと知ってもらいたい。</p>
18 (8)	<p>〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		<p>苦情窓口を明確にしている。介護相談員も受け入れている。</p> <p>第三者苦情機関を設けたい。</p>
19	<p>〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		<p>毎月1回カンファレンス・業務改善会議を設け、意見や提案を出し合い運営に反映している。</p> <p>管理者は比較的頭ごなしに否定せずに職員の言うことに聞く体制をとっています。</p>
20 (9)	<p>〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		<p>勤務調整は行事には増員、ご家族の用事に合わせての変更など余裕ある調整がいつている。</p> <p>新しい入居者が入居の日の夜勤者など考慮したい。</p>
21 (10)	<p>〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		<p>異動や離職は他のGHに比べて大変少ないと思います。それだけに安定して利用者で生活することに成功している。</p> <p>やや職員は年齢が高いので心配。</p>
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>法人内外の研修には積極的に参加しています。</p> <p>セミナーパークの研修は実務経験何年以内で最近では参加条件がオーバーが多く参加できないことがある。違う研修にも多く参加したい。</p>
23	<p>〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		<p>色んなキャラの職員がバラエティーにいます。</p> <p>年齢はやや高齢化してます。</p>
24 (12)	<p>〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>様々な研修に交代で参加し、知識を高め、サービスの向上に取り組んでいる。</p> <p>他GHとの交流として風船バレーの試合を試してみたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		春駒亭にお食事会
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		数字で現れないものへの評価に工夫したい。
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		MBO目標管理制度がまだ生かききれていない気がする。もっと向上したい。
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		初期のご家族や本人からの情報も時間が経つと変わってくるので定期的にセンター方式でもっと生かしたい。
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		昔は初期の信頼関係を築くのにミスもあった。今はない。
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		兄弟仲が悪い方の対応について工夫していければ。対応に困る時ある。
31 (13)	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		体験入居をしたい。
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32 (14)	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		やや職員は高齢化して若い孫のような職員が少ないかも。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	愚痴を言ったり、冗談を言ったりして時にはフラットに二人三脚をモットーとしています。担当者を決めている。		なかなかお仕事などで忙しいが一緒に支えていくという理解を深めていく努力をする。
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族との関係の理解には面会時などで深めている。GH入居しても入居させっぱなしがないよう電話や手紙年賀状出すなどで支援している。		海外(ハンガリー)への息子さんのコンタクトに国際電話、エアメールを利用できれば。
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の家の近くまで車でのんびりと行ったり、地域に出て知り合いに出会うこともあります。		個別の(1対1)外出をもっとしていきたい。
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	寂しい孤立というのはなかなか出来ない環境です。何かといろいろ関わり合いはたくさんあります。		喧嘩はたまにあります。男性が怒鳴る時の対応をDrと相談をしていきたい。
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去しても一時は写真を送ったりしています。退去した家族の方がGHふなきを知り合いに紹介してくれたりします。運営委員の中にも過去のご家族がおられます。		退去の時に良い関係で退去したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いの把握は出来ていると思う。自然と一緒にいると解ってきます。		帰りたいという希望が多いですがなかなかえられないところが理想と現実です。何人かは望みをかなえたい。
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴やサービス利用の経過は把握出来ています。		定期的に把握してGHを退去した後のところのためにもきちんとしていきたい。
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	なかなか人間を理解することは難しいですが努力はしている。		年が近い職員は理解できることが多い。他の職員はイメージーションを活用していないといけな。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランについてはいろいろな人の意見をとりいれて唯一無二のプランになっています。	ケアプランを実際に行うこと、プラン以外に良いケアを実行すること、今後もより質の高いケアをしていきたい。
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族に面会時等打診している。遠方者なら郵送などして、印を押してもらってじ随時確認している。	形だけのものにならないように気を付けています。
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	色々な書類に書かず、記事と日常生活日誌の二つに統一して共有体制が出来ています。	Drはケアプランに無関心？
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隣接する老健ふなきやサムラ(食堂)などあり、わりかた柔軟な支援ができているとは感じます。	隣に保育施設が出来るという話もありました。交流出来れば良いです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ふなき交番とはお世話になっています。山陽文化会館も協力してくれました。宇部市消防署・三栄商事もいろいろ教えてくれます。	必要不可欠な地域資源との協働ですので今後も協力しながら継続したい。
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	看護学生さんの研修受け入れ(毎年)ボランティア、見学などもフリーに受け入れています。	教室の開催をしたいと毎年思っていますが教えるほどじゃないという謙遜・恥ずかしからやっていません。
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	近辺になりますが他のケアマネとの連絡などして支援しています。オープンに話をしています。	基本的に支援には多機能性を生かして支援しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		H20年入居者出入りは2名。あまり動きがなかった。
49 (19)	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		医療連携加算も視野に入れてさらに医療を充実していきたい。
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		定期的に決まった機会を持てればいいです。
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		今、看護職員がGHにいませんが、新看護職員にいつかやなくて徐々に期待していきたいです。
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		誰でも病院関係者と情報交換できるよう一部職員だけでなく対応できるようにしていきたい。
53 (20)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		入居前、病院の見学があまりない。
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		一人最期までGHだったのですが積極的か消極的か分れる。統一化できるならそれが一番良い。
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		昼間など和の部屋を作りたい。(過去あり)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	イニシャルを使ったりして気を使っている。電話も希望あれば事務所で話してもらおう。	申し送り時、少し気になる。送り内容が聞こえそうで
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	言語障害のある方、耳が難聴な方にはボディランゲイジを使ったり筆記したりしています。	職員のペースで支援することもあることはあります。
58	〇“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	お皿洗いは当番でやっています。配膳・下膳・は精力的にやっています。	掃除をしないで！としてない・出来ない入居者に怒鳴る方がいて対応を考えたい。
59 (22)	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	朝、もう少し寝たい人は寝てもらっている。職員の都合優先する時もありますが、出来る限りそっています。	GHが職場と考えてお手伝いしてもらっている方がいます。(給料はいつくれるんか?)と言います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	お化粧品は自由にしてもらっています。外出時は勧めるようにしている。美容もご家族などと気ままに外出していきます。	訪問美容室にややお願ひし過ぎかなあ？ 外出理美容をもっと利用した方がいい？
61 (23)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お皿洗いは当番を決めています。お昼の食事は大変美味しいですし、ゆっくりTV観ながら一緒に食べてます。	調理は手伝ってもらった頻度は減りました。カード並べ等の方が楽しいみたいです。
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	煙草は過去に吸っていた方あり。お酒は×。おやつなど楽しんでる。	晩酌はだめなのかDrに相談したい。恐らく無理ではないかと思う。(アル中毒)
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限り普通のパンツで生活できるよう誘導などしている。	夜間のみオムツ一名。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時には希望あれば夜間に入浴してもら。基本的には決まっていますがタイミングは合わせている。入浴剤、入浴時おもちも使用。		夜間入浴なかなか出来ない。
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	部屋でゆっくりTV観ながらごろんとしている方、職員もうらやましいほど気持ちよさそうに昼寝している方、本を読みながらうたた寝してしまう方、それぞれゆっくりしてもらっている。		日曜日はすごくゆったりだが、他の曜日はなかなか職員が忙しい。もう一つ日曜日をしたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	絵を描いてもらう。本を読んでもらう。縫物をしてもらう。入居者の過ごし方色々、害虫を靴で踏んで殺す方もいる。いろいろ。		基本的に飲酒が出来ない。晩酌が出来れば良いが。
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はなくても良い程度のお金は持っていて。買い物のときにはレジにならんで自身で買い物してもらったりする。		まだまだ認知症あるとはいえ、金銭の所持や使用の可能性のある方もいる気もする。
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外の空気を吸いに戸外には積極的に出ます。中庭も大変良い効果がある。		日中3人だとなかなか現実厳しいものがあります。
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	MAXバリューに買い物に行ったり、法事へ家族と出かけた、GHの入院している方のお見舞いに行ったり。		もう少し担当者個別外出支援を行動に起こしたい…。
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話も手紙も希望があれば支援している。		携帯電話を持っている利用者がいるホームも今後は時代的に出てきたりまたは必要なのかなとも思う。
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族はもとより結構いろんな馴染みの方の訪問はあります。本人にワイワイと楽しいひと時です。		一度切でなく、何度も来ていただくよう工夫はさらに必要。
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	事務室にて宿泊可能です。		あまり宿泊は勧めませんが勧めてみたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		年間行事予定表を1月より作成し、ご家族の日程が調整しやすく願います。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		拘束のホーム内勉強会を久しぶりにやろうと思いました。
75 (28)	<p>〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		外に出て事故になったときどうなるのか誰がどう責任を取るのか。
76	<p>〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		問題なく安全に配慮している。
77	<p>〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		部屋の物品チェックを定期的にした。
78 (29)	<p>〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		ロールプレイ式研修会、実際に起きたと想定した緊張感のある勉強会をもっとして不安をなくしたい。
79 (30)	<p>〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		新職員(準看護師)に少しずつ期待したい。
80	<p>〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		事故があるとどうしても意識も行動もディフェンスになる。バランスが難しい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		本当に災害になった時地域の方は自分のことがせいっぱいで協力してくれるか不安。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		ご家族はお世話になっているという遠慮がある。本音がなかなか聞けないのでは？
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		生活日誌に全て書くのですぐ共有可能。 今の生活日誌に記入することを続けたい。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬ノートに飲んでる薬と作用を記入して確認している。カンファレンスでもDrと話合っている。アリセプトの中止など。 老健よりは入居者も少ないのでフィードバックもしやすく細かすぎる情報も医師に報告できる。
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		適度な運動、水分補給、食事の工夫など薬に頼らないケアに取り組んでいる。 職員も気持ちがよく分かり親身になっている。
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		入居者が「うるさい」と思うくらい口腔ケアはきちんとしています。入居の皆さんも癖づいて習慣になっています。訪問歯科にも相談しています。 何回もしましたがまた再度研修してみたいと感じています。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		ドクターはまいひに日誌で食事量の確認している。採血があれば職員へ指示を出して職員が摂取など支援している。 カロリーを毎日を出していない。
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		マニュアルを作成している。老健や病院から指導や研修も受ける。 GH内は空間が狭く、ある程度感染してしまう。もう少し徹底すれば良いかも知れない。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		衛生点検チェックを毎日付けて予防し、毎日意識して行っている。 せんでつスターは食材が悪いのでMAXバリューへ変更中。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<u>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	木の入居者が掘ってくれた看板を掲げている。玄関にはセンサーも付いているので不審人物に夜間気づける体制です。	外のフェンスの改築の検討中？
91 (36)	<u>〇居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	CDやビデオもいろいろ活用している。光が強いときは消す。TVがやかましい時は消す。季節ごとに花や写真やいろいろ変えている。	出来ればレトロ調にしたい。
92	<u>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お互い、亡くなった相方に似てるらしいお二人はお部屋で話したりLOVEな時間も過ごしてもらっている。	A棟の方はあまり部屋に籠る方はいないので皆さんでカルタしたりする。
93 (37)	<u>〇居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員にとってはいらないと思うものが本人には大事だったりするのであまり捨てない。馴染みのものも置いている。	危険物は取り除くが危険物に変わる時のタイミングが難しい。
94	<u>〇換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は良く出来ている。通路の行き来が多いため。温度は入居者の訴えに合わせている。快適だと思う。	くさいにおいが充満したときは線香を付けたりする。毎日香が欲しい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>〇身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりがありバリアフリーとなっている。職員も気付きあれば修繕する。	床がちいと固いので柔らかいと転倒した時にもどうかと思う。
96	<u>〇わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	張り紙や入居者の中に先生役がいたり、出来るだけ失敗混乱を防ぐようにしています。	認知症レベルに差があるのでなかなか難しい時があります。
97	<u>〇建物の外周りや空間の活用</u> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭には入居者は自由に何度でも出入り出来る。気分転換になっている。うさぎも放してる時は一緒に戯れている。	畑をもう少し増やしたい。フェンスを移動して敷地を広くする予定？

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、活き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームふなき
所在地	宇部市大字船木833番地
電話番号	0836-69-0975
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (12月10日現在)

ユニットの名称	B棟			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	5	要介護4	0
	要介護2	2	要介護5	1
	要介護3	1	要支援2	0
年齢構成	平均 80.5 歳	最低 65 歳	最高 91 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	B棟で全員で意見を出し合い森山がまとめた
評価確定日	平成 20 年 12 月 20 日

【サービスの特徴】

平成13年の開設以来、はじめは試行錯誤で悪戦苦闘でしたがようやく落ち着いてきたような気がします。7月～12月までGH全体で入退去がなく、A棟にいたっては1年入退去がなく、同じ顔ぶれという安心感もあり落ち着いたケアができています。B棟は6月30日以来入居がない。ケアをする上で安心の要因は医療面が充実しているということがあると思います。Drはもちろん、隣接する老健ふなき看護師がよくGHに来ていただき、入居者の健康面の相談にのってくれています。職員は勤務体制が多様で柔軟に対応し、有給なども取りやすい勤務体制となっております。職員も介護福祉士、住環境コーディネーター、ケアマネ、いろいろでバランス取れています。キャラもいろいろ、性格もいろいろ。大きい施設の職員と違って一人ひとりオールマイティーな能力を兼ね備えています。B棟の入居者はわりかた積極的にお手伝いをされようとする方が多いです。ADL 認知症もしっかりとしたまにトラブルもありますがすぐ仲直りして楽しくやっております。ケアプランにはセンター方式を利用。一人ひとりにあったケアを提供しています。行事やボランティアも色々取り組んで地域にも積極的に出ています。お食事は朝昼とホーム内で調理。夕は給食。献立は管理栄養士も同席し週に一度、献立を決めて入居者の健康面を配慮しつつ嗜好を取り込みながらわりかたおいしい料理を提供できています。GH理念のもと基本に忠実にかつ型にはまらない楽しいケアを目指しています。職員が楽しくなければ入居者も楽しくないので肩肘はらずのんびり、バカ言って、たまには落ち込み入居者9名+職員6名、ひとつ屋根の下で共同生活をしています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		独自の理念を掲げている 掲示している
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		管理者と職員は理念(笑顔、尊重、チームワーク)を共有しながら日々話し合いを持ち実践に向け取り組んでいる。 朝の申し送り、朝礼の際、唱和している。
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		ホーム内、職員、見えやすい箇所に掲示してある 時間を作って理念4原則を話し合い皆で笑顔と優しい心のケアに努力している
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		運営者、管理者及び職員はサービスの向上に向け話し合いの場を持ちながら日々取り組んでいる 随時ケアカンファを設けている。センター方式アセスメントに全員丹念にその人らしい生活値向上に向けて熱意の努力している
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		地域運営推進会議を通して家族、地域の人々への理解をいただいている 会議の年頭、資料配布の中にもものせている。運営会議でサービス提供、職員の心構えなど評価をいただいている
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		ボランティアの方々が慰問に来られる時や行事など隣の方にお誘いの手紙や声掛けをする。また、お隣さんが折り紙を教えるに週1程度来て下さる。 誘いはしているがなかなか遠慮してこられない、もっと気軽に来られるように声掛けしていきたい
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		フリマ、ふれあい祭りなど参加し地域の方との交流をとっている、又、ボランティアの方を招き交流の場をもっている 近隣の方月3から4回来られて折り紙教室を開いている。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		運営会議で話し合いをしている。船木小運動場の草抜き 取り組みまではいっていない。環境的、利用者の身体的に依り実行できなかった。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己及び外部評価の意義を理解している、前回の評価結果について話し合い生活歴の把握についてはセンター方式を実践している自己評価記入の仕方説明している。ユニットごとに全員で行い1年をふり返える機会としている	大変な作業です。時間も要しますが振り返る機会として全員で取り組んでいます。
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	メンバーは元民生委員、地域の方、ご家族、利用者、職員、市職員、を交え2か月毎に実施している。ホームでの取り組みや現状報告、意見や提言を活発に出され、職員は出来ることを実践している	サービスの提供の公表をしている。評価もいただいています。園芸菜園のサービスなど参考となりサービスに活かしている。
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市とは利用者の課題や不明な点の相談をしたり、時々市職員も立ち寄り、情報交換をしている	介護相談員、1か月に1回来ホームしていただき介護相談などサービス質向上に繋がっています
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修を通して学んでいます。必要な利用者の方は親族関係者の方ともよく話し合い、活用を支援しています。	
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は研修、勉強会の機会を設けている。虐待が見過ごされることがないように職員同士が常に注意を払い防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書を利用者、家族に1つ1つ丁寧に十分な説明と理解納得を図っています。	説明、同意を得て、利用者、ご家族の署名捺印をもらっている
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が気軽に職員に不満や苦情を言える雰囲気作りを常にコミュニケーションをはかっている。それらを運営に反映させている。	老健相談員も不満苦情委員として。意見を運営に反映する体制整っている。
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回ふなき便り(新聞)預かり金残高表、ご家族に近況報告の手紙を送っている。	近況の手紙には職員の顔写真入りです。ご家族との関わりを深めています。預かり金が少ないのを確認されてわざわざ来所面会会の折預けられる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○<u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○<u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		相談苦情の対応マニュアル掲示している。第三者委員 老健 支援相談員窓口を設けている。
19	<p>○<u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		業務改善会議などで反映させている
20 (9)	<p>○<u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		勤務体制を細かく分け 利用者や家族の状況により職員を増員したり、運転ボランティアの要請をするなど柔軟に対応している。
21 (10)	<p>○<u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		当ホームでは異動はなるべくしないようにしている
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○<u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		ホーム内研修、老健研修、病院での研修と参加している
23	<p>○<u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		28歳から66歳までバランス良く配置している
24 (12)	<p>○<u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		地域のグループホーム連絡会、勉強会 支援専門員の勉強会に参加している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		GHに見学及び体験入居を推進している。また、在宅、施設へと数回訪問して信頼関係を築いている。
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		ご家族の面会、見学と推進している。ご自宅にも足を運んで家族との信頼関係を築いている
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31 (13)	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		事前に見学、茶話会をしたり、施設の場合は面会に行き馴染みの関係作りをしている。緊急入居の場合は家族の面会を頻繁にするなどの配慮をしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		昔とった 多くの生活の知恵を職員は学ばせていただいています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p>〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		地域運営会議にも出席されて不安、ご意見をうかがい、終了後、個人的に面談してご家族、利用者様の支援を図っている
34	<p>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		電話手紙面会の交流を深めている
35	<p>〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		毎月の新聞で行事のお知らせをして関係の継続をしている
36	<p>〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		食事の準備などを通して役割を理解していただき皆で協働している。
37	<p>〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		要望があれば応じるようにしている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<p>〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		ご家族の意向を把握している。その上でご本人の思いを尊重して介護計画を立てている。センター方式使用。
39	<p>〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		これまでの暮らしを大切に！！その暮らしの継続が出来るようセンター方式を取り入れている。残存能力を引き出すケアプランを立てている
40	<p>〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		センター方式を取り入れ残存能力、機能を引き出す為のケアに取り組めるよう把握している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や利用者の意見要望を聞き、月1回カンファレンスを開催し介護支援専門員と職員で十分話し合い介護計画を作成している	職員皆でセンター方式に取組みカンファレンスで気づき情報、意見交換して介護計画を作成している。
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月毎に見直しし変化が生じたときはその都度カンファレンスを行い、家族や利用者とは話し合っ新たな計画を作成している。	サービス期間中に不都合が生じた場合にはご家族、ご本人の了承を得ている。カンファにて話し合い現状に即したサービス計画を作成している。
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画にそって毎日の様子を記録している。その記録にそって介護計画の見直しに活かしている。	介護計画 日々のチェックをしている。日常生活記録に記入している。3か月とケアカンファにて介護計画を見直している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療受診・選挙・墓参りなど同行支援している。また、ご家族が不安に思われる時にはグループホームに泊まれるようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	2か月に一回 運営委員会を開き民生委員・地域の方々と意見交換している	民生委員・警察署・消防士・ボランティアの方々と協働支援している
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	要望があれば施設見学を受け入れている。その際個人情報保護に配慮している。	市の婦人会・自治会・ボランティア・自治会長・民生委員の方々の見学・推進している
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	老健にて風船バレー大会など見学・参加したことがある	寿光園との試合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		今から老健の看護師との情報交換・医療の活用支援に努める
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		終末期ケアの研修に取り組みたい
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	月2回の研修でプライバシーの確保について常に確認し、プライバシーを損ねないような言葉掛けや対応に気を付けている。記録類は所定の場所に保管している	プロに依る接遇の研修会参加している
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	常に利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の希望を尊重しながら支援している	日常着の洋服もご自分の好みを着ていただいている
58	○“できる力”を大切に家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	主婦時代の得意分野を發揮できるよう、特に火事・料理部門を大切に支援している。日用品・好みの物など食材の買い出しを利用同行している	ひとり一人にあったセンター方式を使用して介護計画を立てている出来る力を引き出すよう取り組んでいます
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	利用者ひとり一人の希望にそってその人らしい暮らしができるよう支援している	行動する前に利用者へのどのようにしたいのですか？何がしたいのかを必ず聞くようにしている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2か月に一回 訪問理容院を利用している。ご家族・職員動向に依り近隣の美容室へ出向いている	2名の方、美容院へ
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者献立会議をし、一緒に食材の購入や手作りの野菜も使って調理・盛り付け・食事の片づけをしている。会話も多く楽しみながらの食事風景が見られた	食事の準備・後片付け・当番制にて行っている。当番は皆が見える位置に揚げています
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは毎週木曜日の献立会議に参加。自分の嗜好を希望されている。アルコール・たばこは当グループホームは禁止となっている	朝・昼の食事献立表を作成している
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握している。トイレにて排泄を習慣化して気持ち良い環境を整えている	ご本人のプライバシーの配慮に心がけ気持ち良い排泄行為を行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回 15時から18時となっているが希望があれば毎日入浴できる体制になっている。体調や状況に合わせて清拭、シャワーなどもあり、利用者が楽しめるよう支援している。	
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	音、色、光、香りなど環境に配慮している 心地よく眠る為、日中極力体も動かしている。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者のその日の希望に合わせて、絵画、パズル、漢字並べ、数字合わせやうさぎの飼育、金魚の餌やりなど活躍できる場面作りをして楽しみ事や気晴らしの支援をしている	
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	地域のイベントに参加して自分でお金を管理している(職員付き添っている)	全員預かり金は金庫にて保管、必要に応じて使えるよう支援している
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	法人の敷地は広く希望により毎日散歩にでかけ、老健や授産施設に立ち寄ることもできる。又、近くのスーパーへの買い物季節ごとの行事に老健の車で出かけている。	買い物も同行し心懸ける支援している
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	四季を通して出かけている。自然に触れて、時節を感じ味わってもらっている。ご家族とともに個別に旅行を楽しんでいる。	年間行事予定表をもとに実行している
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は常に使用できるよう配慮している。手紙による文通も支援している	特に暑中見舞い、年賀はがきは自筆にて差し出している。ハガキ封筒、切手は常備している
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間、自室、ソファと家具の用意を揃え気軽に訪問出来プライバシーにも配慮して心よく会話できる雰囲気になっている。	お茶を囲んで団欒する環境を提供している
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	ベット、寝具数は用意	用意周到しています

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	四季を通して家族、参加をしてもらっている。家族の方がボランティア行事も組んで交流している	花見、夏のイベント 秋の紅葉見学、クリスマス
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	見守りを重視し拘束のないケアに取り組んでいる	禁止しています、生命に危惧と思われる場合はご家族の同意書をもらい記録を残している
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の外出傾向を把握し外出があれば一緒に歩くなど見守りを徹底している 法人内の連携プライで日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホーム全体(回り)フェンスを設置する予定である
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜、見守り重視し 利用者の行動を把握している	地域の施設、近隣へ徘徊表顔写真を差し上げている
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状態に合わせて危険と思うものは取り除き保管、管理している	
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの状態を把握し、事故報告やヒヤリはつとを記録し会議で話し合っ職員間で共有し事故防止に努めている	「転ばぬ先の杖」優勝にて全国発表会参加(飯塚市)
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し、すべての職員が急変時に対応できるように訓練している	
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリはつと報告書記録。カンファレンスによる話し合い。反省点、改善点など見直し再発防止に努めている	地域運営会議にも提案させていただき、地域で支えている方向へ努力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<p>〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		防火管理者常勤している
82	<p>〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		履物、衣服などの配慮をご家族へ説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		看護師が常勤しています
84 (32)	<p>〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		手渡す際、大きい声で名前を言い、再三確認している。
85	<p>〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		排便困難な方は薬剤にて排便を促している
86 (33)	<p>〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		義歯の方は夕食後ポリドントに浸している。
87 (34)	<p>〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		水分は1日、最低1200CC飲用している
88 (35)	<p>〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		予防対応として塩素系 アルボース 使い捨てエプロン、マスク手袋用意周到。
89	<p>〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		毎日の衛生管理表をチェックして予防に心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には看板を置いている。門扉から入ると花壇には季節の花が植えてあり美しく落ち着ける。	長椅子設置していつでも近隣者と親しんでいただく工夫をしている
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は広く明るく壁には季節の飾り付けや行事の写真が飾られうさぎや金魚が飼われて家庭的で穏やかな空間となっている。ガラス越しに中庭の花壇が見られ季節の花が植えられて居心地良く過ごせるよう工夫されている	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TVの前にソファを置き話をしながらTVを観たりして団欒できるような配置になっている。	玄関ホールにソファを置いて、かくれ部屋にて思い思い過ごしてもらっている
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が使いなれた家具や日用品が持ち込まれそれぞれの趣味の品や作品が飾られている	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	契約書を利用者、家族に1つ1つ丁寧に十分な説明と理解納得を図っています。	部屋には香りのコロンなどおいている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	危険物を取り除き、家具の配置にも気を付けて安全な生活を送れるよう配慮している	中庭の段差など真砂を敷いて差を最小限としているまた、個人身体機能訓練も行っている
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の残存能力を生かし、励ましながら支援している	ひとりひとりの認知能力に合わせたレク、生活リハ、炊事など暮らしに工夫をしている
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花壇があり、四季にあった花を利用者と一緒に植えている。	プランターを利用して春の七草がゆが楽しめるようカブ、大根、など植えている

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、活き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない